

ななかまど

NANAKAMADO

Hokkaido Information University Magazine

Volume 74

Published on September 20, 2020



特集

With

ウィズコロナ時代の学びとは

W I T H

新しい感染症の到来は、

わたしたちに新しい生活様式を考える

きっかけをもたらしました。

リモートワークに代表されるように、

コミュニケーションにITが大いに活用されはじめ、

人のつながりもまた変化を求められています。

わたしたちは、この変化にどう対応するべきでしょうか。

今回のななかまどでは、

「情報大のウィズコロナ」をご紹介します。

“ウィズコロナ時代”の大学での学び

さわい すくる
学長 澤井 秀



地震に起因する全道ブラックアウトや台風による倒木被害の発生、はたまた大学構内へのヒグマの出没など、身近なところでも毎年のように想定外のことが起こっています。新型コロナウイルスの蔓延なども現実に分人たちの周りに起こることとして誰が想定していたでしょうか。

本学では2月末頃からの行事をほぼことごとく中止にして感染防止に努めてきました。そのため、卒業生や入学生にとっては掛け替えのない卒業式（学位記授与式）や入学式も断腸の思いで中止としました。授業は学生の安全（感染防止）を最優先に考え、当初予定より半月ほど遅らせて4月27日から遠隔授業のみ開始しました。学生全員に配付しているタブレット端末で授業を受けることができますし、ネットワーク環境の無い学生には学内の実習室を、感染予防対策をした上で使えるようにしました。通常の対面

授業に関しては実習科目などの遠隔ではできないものを中心に一部の科目で6月1日から開始するなど、政府や北海道の方針に沿って実施してきました。遠隔授業は感染防止の面からは好ましい形態ですが、学生と教員あるいは学生同士の対話という点では歯がゆいものがあります。そのため、遠隔主体で時々対面の授業を行うなどのハイブリッド授業形態をとっている科目もあります。また、科目担当教員がいろいろ工夫して、通常の対面授業に勝るとも劣らない遠隔授業もあります。学内の学生サポートセンターや保健センターでは学生の生活や健康面での相談に乗っています。

今後もしばらくは新型コロナウイルスと共に生きていくことが求められる“ウィズコロナ時代”が続くと思われまので、感染防止対策をしっかりと取りながら、乗り切っていきましょう。

遠隔教育の先駆けとして

インターネットが普及する前、まだeラーニングという言葉もなかった時代から30年以上にわたり、本学ではコンピュータを教育に取り入れる研究や技術開発に力を注いできました。その成果として、1994年からは通信衛星を利用した遠隔教育システム（PINE-NET）による授業の放映を開始し、2003年からはオリジナルのeラーニングシステム「無限大キャンパス」の本格利用を開始しました。また2005年には学内のラーニング・マネジメント・システム「POLITE」を開発しその後もアップデートを重ね、現在では「POLITE3」として学生の学びのプラットフォームとして大いに活用されています。

本学では現在、こうした長年に渡り蓄積された技術・スキルや、「無限大キャンパス」のeラーニングコンテンツ、そして授業単位で様々な教材にアクセスでき、学生同士や教員とのコミュニケーションも図れる「POLITE3」を活用することで、遠隔授業を強力に推進しています。



本学に隣接する北海道情報技術研究所
通信教育部の授業を全国に毎日放送している



前期の授業総括

学びを止めない

急遽開始することとなった遠隔授業。準備期間が十分とは言えない中、学生への学びの提供を止めないために、教員・職員が一丸となって準備を進めました。本学には既に遠隔授業支援プラットフォーム「POLITE3」が整備されており、また、“情報”に強い教員が多いということも相まって、社会全体が混乱する中にも関わらず、全国的に見ても早い4月27日から前期授業を開始。最終的には、前期開講科目の約8割で、遠隔授業を展開しました。残りの約2割は、実習を含む等で遠隔での実施が難しい科目でしたが、そうした科目も6月からの対面授業解禁後、感染予防を意識した環境の中で、無事実施することができました。



POLITE3の教員向け講習会



映像教材収録はプロの現場さながら

遠隔授業までの道のり

遠隔授業の実施に向けては、教員向けの研修会を複数回実施しました。研修会では、遠隔授業の考え方や簡単なビデオ教材の作り方、オンデマンド授業の実現方法、Web会議システム利用時の留意点などについて、事例を交えて解説しました。

4月27日から5月末までは、第1段階として遠隔授業を行う科目のみを開講しました。遠隔授業は、科目の特性によりその形態が大きく2つに分かれます。1つ目は、Web上に授業用の映像教材やスライド、課題等を掲載し、学生のタイミングで学習を進めてもらうオンデマンド授業。2つ目は、Web会議システム等を用いて特定の時間に学生と教員が繋がるリアルタイム双方向授業です。どちらの形態においても、授業に関する質問の受付や、学生同士の意見交換の場を設け、学生の学びをサポートできる体制の下実施しました。6月からは、引き続き遠隔授業を基本としながらも、一部科目において対面授業を解禁しました。対面授業の実施に当たっては、座席間隔を空ける、定期的な換気を行う等の「3密」にならないための対策により、感染予防を徹底しました。

中国からも全授業を受講



本学には総勢28名の中国人留学生が在籍し、うち18人が日本に戻れずにおりましたが、中国の自宅ですべての授業を遠隔で受講しました。



座席間隔を空けた対面授業



フェイスシールドも活用し感染予防



リアルタイム双方向授業で学生の学びをサポート

オンラインでゼミナール

斎藤ゼミ | オンラインでも楽しく

さいとう はじめ
斎藤 一教授（情報メディア学科）はビデオ会議システムを用いたゼミ活動を行っています。

活動が続ける中で、オンラインならではのメリットも出てきました。中でもチャット機能は発言のハードルを下げ、おかげで普段発言が少ない学生からも意見が出るようになりました。またログが残るため、口頭では流れがちな意見でも後から確認することができ、多様な意見を議論の場に上げることができるようになりました。ゼミ生たちは普段の研究活動に精を出す傍ら、自ら発案してオンラインで新ゼミ生歓迎会やテトリス大会を行うなど、楽しむ姿勢も大切にしています。夏からは4年生に代わり、3年生主体の新しいプロジェクト体制がスタートしました。ICTを活用して、新型コロナウイルスに負けず精力的に活動していきます。



オンライン新ゼミ生歓迎会

酒井ゼミ | 腹話術で授業!?

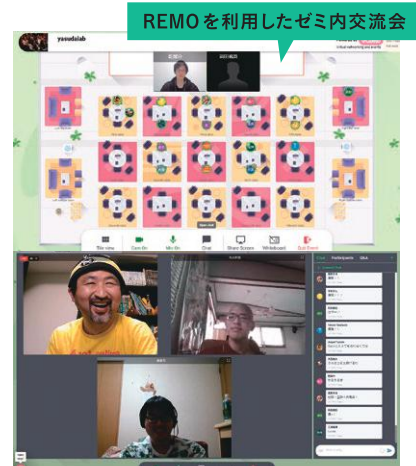
世間ではYouTubeなどのオンラインコンテンツが充実し、学生の目も肥えています。そのため、遠隔授業で学生の注意を惹くためには、ユニークさも重要です。そこで、酒井 雅裕准教授（情報メディア学科）は、ゼミで実施している生放送授業を、本人と二次元キャラクターの二人体制で行っています。キャラクターの動きと声は酒井准教授が操作するため「腹話術スタイル」と名付け、学生からは「画期的だ!」と高評価です。また、単にユニークだけでなく、(可愛い)キャラクターを介した言葉は、教員本人が直接伝えるより却って学生に響く場合があり、使い分けにより授業効果を高められる可能性も秘めているようです。言うまでもありませんが、キャラクターの声色はボイスチェンジャーで変えています。

左:二次元キャラクターの通称“ソルティ”



安田ゼミ | 内緒話で繋がり深まる

多人数でのイベントが制限される中、安田 光孝教授（情報メディア学科）のゼミでは、新ゼミ生（3年生）と4年生の繋がりをどう深めるかで悩んでいました。そこで、学生にオンラインゼミを楽しむ方法を検討するチーム「おんたの」を結成してもらい、その発案でオンライングループ会議システム「REMO」を利用したゼミ内交流会を行いました。REMOは画面上の仮想テーブル毎に最大6名のグループ会話ができるのが特徴で、5分間隔で席をローテーションして活発な交流を促しました。各テーブル内の会話は外には漏れないので、少人数で内緒話をしているような感覚があり、面識の薄い者同士であっても「気軽に深く会話できた」と学生から高評価でした。



REMOを利用したゼミ内交流会

インターネット試験で密を回避

本学は1994年に通信教育部を開設し、全国で初めて衛星通信(PINE-NET)による大学教育を始めました。通信教育部には、約3,600名の学生が全国各地に在籍しており、eラーニング授業等を活用し、学位取得や教員免許状取得などを目指して勉強しています。

通信教育部では、年に4回、全国18会場で行う筆記試験とインターネットでの試験を行っていますが、今年は新型コロナウイルス対策として、会場試験を中止し、一部科目のみだったインターネット試験を全科目で実施することとなりました。

5月の試験の受験件数は8,056件(昨年度 5,627件)で、昨年度を大きく上回る結果となり、インターネット試験の需要が高いことがわかりました。今後は今回の試験での問題点の改善や、セキュリティ面などを強化し、安心してインターネット試験を行えるように対応していきます。

eラーニング授業の様子



どこでも気軽にLINEで相談

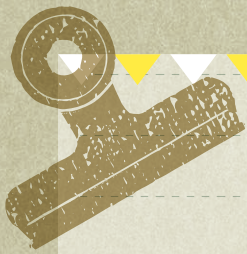
相談の対応をする高橋さん



ピアサポートルームでは、学校生活についての相談ができる場を設けていましたが、対面での相談が難しいことから、大学院1年生の川上 寛弥さんが企画したLINE相談の受付を開始しました。川上さんが主体となり、同期の高橋 幸生さんと学生からの相談に対応してくれました。対面での相談員経験を活かした、円滑な対応のおかげで多くの学生からの相談に応えることができました。

相談内容は遠隔授業についての悩みや不安・質問等がメインですが、それ以外にも幅広い質問がありました。学年を問わず相談がありましたが、その中でも大学をあまり知らず、不安の大きい新入生にとって好評のようでした。

後期からは今までのように、ピアサポートルームで対面での相談を行う予定です。一人で悩まず、まずは相談してみてください。



キャンパスの今をお伝えします。

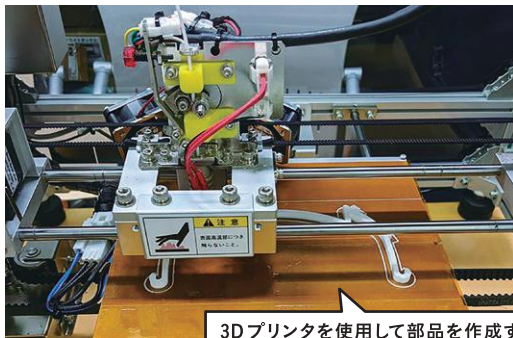
Facebook
ページはこちら

キャンパスだより



フェイスシールドで 社会貢献

株式会社シェアデザインが行ったフェイスシールドプロジェクトに向田 茂教授（情報メディア学科）と佐瀬 雄治講師（医療情報学科）が協力しました。フェイスシールドプロジェクトは、医療機関や福祉施設へフェイスシールドを無償で届けるというプロジェクトで、Webサイトに公開されている部品のデータを基に、本学にある3Dプリンタを用いて部品を作成しました。最終的には、フェイスシールドプロジェクトへ140個を寄付しました。その他にも、医療機関に50個、本学広報室に40個を寄付し、オープンキャンパスで使われるなど、学内外でコロナ対策に貢献しました。



3Dプリンタを使用して部品を作成する様子



完成したフェイスシールドの部品

マスクで深まる絆

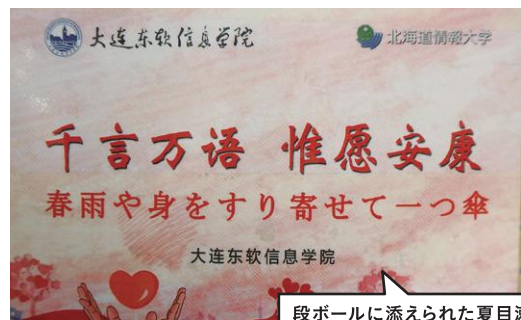
国際交流協定を結んでいる中国の大連東軟信
学院から、心温まる支援物資が届きました。

中国での感染拡大から現在に至るまで、両大学間では留学生の状況やオンライン授業の様子などの情報交換を続けていました。そうした中、日本ではマスクが入手にくいという状況を知り、大連の温
涛学長の力強い応援メッセージと共にたくさんのマスクが届けられました。

マスクを詰めた段ボール箱には、日本語で「春雨や身をすり寄せて一つ傘」という夏目漱石の句も添えられており、「新型コロナウイルスによる困難を共に乗り越えよう」という大連からのメッセージと受け止め、両大学間の深い絆を感じました。



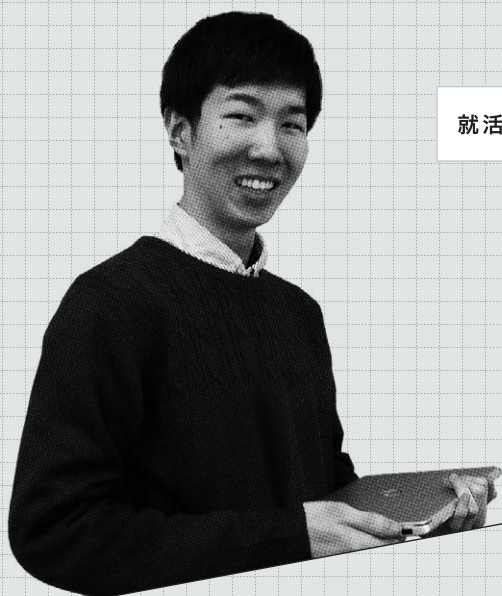
マスクと共に記念撮影する澤井学長



段ボールに添えられた夏目漱石の句

新型コロナウイルスは 就職活動をどう変えるのか

「売り手市場」から一転、コロナ禍の就活戦線。その渦中の2人に話を聞きました。



就活生

ふじい しょうご
藤井 翔悟 情報メディア学部4年

日本コムシス株式会社（総合職）内定

メリットの方が大きかったように思います。特に金銭面。説明会や面接はWeb中心でしたので旅費負担が軽く、学業に費やす時間も確保できました。Web面接は対面よりもリラックスして臨めました。これからの就活で重要なのは、リアルな自分を感じてもらふことだと思います。事前準備をしっかり整え、自分が何者であるかを伝えられたことが良い結果につながったと感じています。

採用担当

まつもと ともたか
松本 智貴 経営情報学部 平成22年度卒業

国分北海道株式会社 人事総務課

遠くの学生とも繋がれる時代になったことは採用側として大きなメリットです。

どんなに厳しい環境下でも自分を表現できる学生は魅力的に映ります。自分自身に関心を持ち、今後の人生を描いて行動することが重要です。失敗なんてありません。うまくいかない経験は人生の財産になります。それが納得できる就活、納得できる人生に繋がると私は信じています。



学内専用ルームで
Web会社説明会に参加する学生



就職課から

就活生はこの環境下でのサバイバル能力が試されています。

就職課は、3月からWeb面接対策やWeb会社説明会を開始するなど、学生がどこにいてもサポートできる態勢を整えています。3年生向けの就職ガイダンス「キャリアサポート」も遠隔で行っています。

就活生のみなさんに納得感の高い就活を行ってもらえるよう今後も支援の充実に努めます。



Webで体験!

Web オープン キャンパス

オンラインで理解を深める 北海道情報大学

今年度はイベント中止が相次ぎ、進路に関する情報収集の場がなく困っている受験生が多いです。また、今年度から入試制度も変更になるため、更に受験生は不安が大きかったと予想されます。

進路に関する情報を欲している受験生のために、本学WebサイトにWebオープンキャンパスを開設しました。Webオープンキャンパスでは、短編の動画コンテンツを確認することで、いつでもどこでも北海道情報大学について体験し、理解を深めることができます。

コロナ禍の今、ICT業界はより注目が高まっています。開学以来、世の中で活躍できるICT人材を輩出し続けてきた本学の魅力を、イベントやWebコンテンツを用いてより多くの方に伝えていきます。

Webオープンキャンパスに公開中の 動画コンテンツをご紹介します!



本学の充実した学習環境や質の高い学び、安定した就職率の理由から本学独自の奨学金制度までを紹介しています。



オンライン 個別相談会

もっと詳しく確認したい点、疑問点がある際には、Zoomを用いたオンライン個別相談会も行っています。

Webオープンキャンパスのナビゲーター

れいいちくん

0 1 0 0と1で、0を1に。
JOHODA1

0と1(2進数)で、0から1(新アイデア)を生み出すのが得意です。



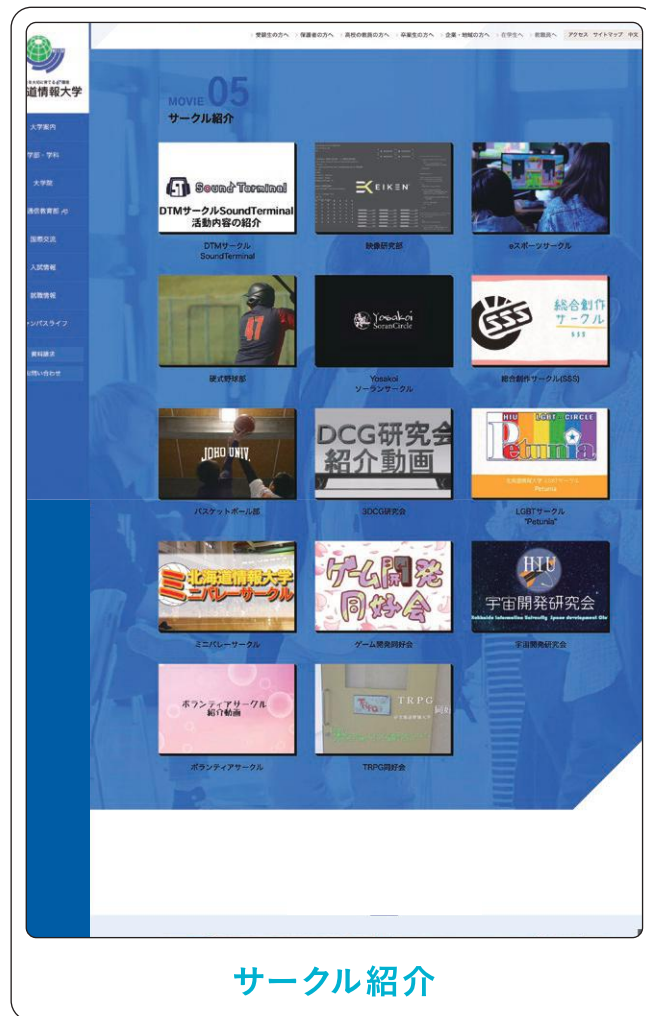
入試ガイダンス

4つの選抜方法（総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、共通テスト利用選抜）それぞれの選抜方法や配点を確認できます。



研究室紹介

先生の担当科目や研究分野を聞くことで、本学での学びの内容を知ることができます。



サークル紹介

各サークルの活動内容や様子を確認できます。このサークル紹介動画は、学生実行委員会が企画し、各サークルと協力して作成しました。

■ 本学における奨学金制度等

(1) 遠隔授業実施に伴う 通信環境整備の支援（貸与奨学金）

本学では以前から学生全員にモバイル端末を無償貸与しています。その端末を遠隔授業で活用していただいておりますが、自宅にインターネット環境がない、または利用制限がある学生にインターネット環境を整備していただくために奨学金の無利子貸与を行いました。

(2) 北海道情報大学教育研究振興事業 給付型奨学生募集

諸般の事情により家計が急変し、学業の継続が困難な学生に対し、奨学金を給付する制度です。例年、後期中に募集を開始します。

お問い合わせ先

北海道情報大学 学生サポートセンター事務室 学生課
011-385-4416 / gakusei@do-johodai.ac.jp

■ 同窓会「蒼天会」からのお知らせ

新型コロナウイルス影響下のさなかではありますが、心地よい秋の気配を感じ始める季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

蒼天会は、毎年母校の「教育研究振興」のため募金支援をおこなっております。このたびのコロナ禍においても、不自由を余儀なくされている学生の皆様の一助となれば幸いに存じます。

また、本会正会員・準会員の子女・兄弟姉妹に対しても、給付型「入学奨励金制度」がございます。ご家族で本学入学を検討されている方がいらっしゃいましたら是非御活用ください。

お問い合わせ先

北海道情報大学同窓会「蒼天会」事務局
011-385-5233 / dosokai@do-johodai.ac.jp

学校法人 電子開発学園 令和元年度決算の概要

令和元年度決算が理事会ならびに評議員会で承認されましたので、その概要についてお知らせいたします。

学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を示す「資金収支計算書」、経営状態を示す「事業活動収支計算書」、財政状態を示す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条および学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成したものです。

1. 資金収支計算書

令和元年度の収支状況を資金収支計算書により資金の流れを予算と決算で比較します。

(1) 収入の部

手数料収入で9百万円増加、寄付金収入で百万円増加、補助金収入で8百万円減少、付随事業・収益事業収入で3百万円減少、受取利息・配当金収入で百万円減少、学費前受金収入で14百万円増加、その他の収入で64百万円増加しました。収入の部合計は102億8百万円となりました。

(2) 支出の部

人件費で3百万円増加、教育研究経費及び管理経費で58百万円減少、施設関係支出及び設備関係支出で5百万円増加、その他の支出で14百万円増加しました。翌年度繰越支払資金は50億62百万円で1億84百万円増加し、支出の部合計は102億8百万円となりました。

2. 事業活動収支計算書

令和元年度の事業活動状況を事業活動収支計算書により「教育活動収支」、「教育活動外収支」、「特別収支」の3つの事業活動に区分し、それぞれの収支状況を予算と決算で比較します。

(教育活動収支)

(1) 収入の部

手数料、寄付金収入で11百万円増加、経常費等補助金、付随事業収入で11百万円減少となり、収入合計は42億17百万円で、百万円減少となりました。

(2) 支出の部

人件費で3百万円増加、教育研究経費及び管理経費で59百万円減少、徴収不能額等で3百万円増加となり、支出合計は39億81百万円で、54百万円減少となりました。「教育活動収支差額」は2億36百万円となり、53百万円増加となりました。

(教育活動外収支)

(1) 収入は受取利息・配当金が31百万円で百万円減少となりました。

(2) 支出は借入金等利息が8百万円で、「教育活動外収支差額」は23百万円で、百万円減少となりました。「経常収支差額」は2億59百万円となり、52百万円増加となりました。

(特別収支)

(1) 収入は5百万円で百万円増加となりました。

(2) 支出は30百万円で4百万円増加となり、「特別収支差額」は△24百万円となり、3百万円減少となりました。

「基本金組入前当年度収支差額」は2億35百万円で49百万円増加となりました。「基本金組入額合計」は2億44百万円で66百万円減少となりました。「当年度収支差額」は△10百万円で1億15百万円増加となりました。「翌年度繰越収支差額」は6億61百万円で1億15百万円増加となりました。

3. 貸借対照表

令和元年度の財政状態を貸借対照表により本年度末と前年度末で比較します。

(1) 資産の部

合計で156億54百万円と前年度末対比で2億21百万円増加しました。「固定資産」は主に建物が大学の学生食堂リニューアル及び国際交流センター冷暖房設備・専門学校改修工事等で98百万円増加、大学の厚生棟別棟及び専門学校の4号館の除却で6百万円減少、減価償却額で1億69百万円減少しました。構築物が屋外看板設置等で6百万円増加、減価償却額で4百万円減少しました。教育研究用機器備品が大学の実習室パソコン・iPad・専門学校のノートパソコンの備品購入等で1億5百万円増加、専門学校の衛星設備の除却で2百万円減少、減価償却額で1億2百万円減少しました。管理用機器備品が大学の備品購入で2百万円増加、減価償却額で4百万円減少しました。図書が書籍購入等で3百万円増加、第2号基本金引当特定資産が50百万円増加、退職給与引当特定資産が25百万円増加しました。ソフトウェアがキャンパスシステムの改修等で14百万円増加、減価償却額で34百万円減少しました。これにより固定資産合計104億48百万円で18百万円減少となりました。「流動資産」は52億6百万円で2億39百万円増加し、主に現金預金が2億38百万円増加となりました。

(2) 負債の部

合計で28億37百万円と前年度末対比で14百万円減少しました。「固定負債」はeDCタワー等の長期借入金で79百万円減少、退職給与引当金が27百万円増加、長期未払金が30百万円減少し、合計83百万円減少となりました。「流動負債」はeDCタワー等の短期借入金で13百万円減少、未払金が1億円増加、学費前受金が73百万円減少し、合計69百万円増加となりました。

(3) 純資産の部

合計で128億17百万円と前年度末対比で2億35百万円増加しました。「基本金」は121億56百万円で固定資産のうち継続的に保持すると判断されるものの額を示す第1号基本金の組入額が1億94百万円増加、将来取得する固定資産の取得に充てる資産の額である第2号基本金の組入が50百万円増加しました。

今日、私学を取り巻く環境は、学齢人口の減少等により年々厳しくなっています。本学園は、健全な財務体質を維持するために教職員が一致結束して、特色ある教育活動や教育サービスの見直しにより定員確保に努め、また経費節減に取り組み、安定した学校経営を推進する所存です。

I. 資金収支計算書 平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

収入の部 (単位:円)			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,368,235,000	3,368,158,855	76,145
手数料収入	33,848,000	43,304,096	△9,456,096
寄付金収入	4,710,000	5,741,010	△1,031,010
補助金収入	277,454,000	269,283,307	8,170,693
国庫補助金収入	258,462,000	249,878,000	8,584,000
地方公共団体補助金収入	18,992,000	19,405,307	△413,307
資産売却収入	1,000,088,000	1,000,288,686	△200,686
付随事業・収益事業収入	422,352,000	419,466,784	2,885,216
受取利息・配当金収入	32,440,000	31,472,390	967,610
雑収入	89,757,000	89,025,744	731,256
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,290,279,000	1,304,696,060	△14,417,060
その他の収入	268,766,000	332,587,647	△63,821,647
資金収入調整勘定	△1,448,861,000	△1,479,528,935	30,667,935
前年度繰越支払資金	4,823,991,000	4,823,990,554	446
収入の部合計	10,163,059,000	10,208,486,198	△45,427,198

支出の部 (単位:円)			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,801,583,000	1,804,165,277	△2,582,277
教育研究経費支出	1,242,713,000	1,204,757,327	37,955,673
管理経費支出	618,198,000	598,544,315	19,653,685
借入金等利息支出	8,471,000	8,470,609	391
借入金等返済支出	91,661,000	91,660,000	1,000
施設関係支出	101,772,000	104,304,637	△2,532,637
設備関係支出	127,127,000	129,200,142	△2,073,142
資産運用支出	1,235,872,000	1,238,574,615	△2,702,615
その他の支出	472,519,000	486,752,328	△14,233,328
資金支出調整勘定	△415,261,000	△520,181,631	104,920,631
翌年度繰越支払資金	4,878,404,000	5,062,238,579	△183,834,579
支出の部合計	10,163,059,000	10,208,486,198	△45,427,198

活動区分資金収支計算書 平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

			(単位:円)		
科目			金額		
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	3,368,158,855		
		手数料収入	43,304,096		
		特別寄付金収入	3,953,500		
		一般寄付金収入	1,705,010		
		経常費等補助金収入	269,283,307		
		付随事業収入	419,466,784		
		雑収入	88,859,424		
		教育活動資金収入計	4,194,730,976		
	支出	人件費支出	1,804,165,277		
		教育研究経費支出	1,204,757,327		
管理経費支出		596,725,726			
教育活動資金支出計		3,605,648,330			
差引			589,082,646		
調整勘定等			△13,613,407		
教育活動資金収支差額			575,469,239		
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	82,500		
		施設設備売却収入	288,686		
		施設整備等活動資金収入計	371,186		
	支出	施設関係支出	104,304,637		
		設備関係支出	129,200,142		
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	50,000,000		
		施設整備等活動資金支出計	283,504,779		
	差引			△283,133,593	
	調整勘定等			△15,452,369	
	施設整備等活動資金収支差額			△298,585,962	
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			276,883,277		

			(単位:円)	
科目			金額	
その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	1,000,000,000	
		退職給与引当特定資産取崩収入	63,255,642	
		その他の収入	188,138,437	
		小計	1,251,394,079	
	支出	受取利息・配当金収入	31,472,390	
		過年度修正収入	166,320	
		その他の活動資金収入計	1,283,032,789	
		借入金等返済支出	91,660,000	
		有価証券購入支出	1,000,000,000	
		退職給与引当特定資産繰入支出	88,574,615	
その他の支出	137,089,153			
小計	1,317,323,768			
その他の活動資金支出計	借入金等利息支出	8,470,609		
	過年度修正支出	1,818,589		
	その他の活動資金支出計	1,327,612,966		
	差引	△44,580,177		
調整勘定等			5,944,925	
その他の活動資金収支差額			△38,635,252	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			238,248,025	
前年度繰越支払資金			4,823,990,554	
翌年度繰越支払資金			5,062,238,579	

2. 事業活動収支計算書 平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位：円)

科目		予算	決算	差異
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	3,368,235,000	3,368,158,855	76,145
	手数料	33,848,000	43,304,096	△9,456,096
	寄付金	4,550,000	5,658,510	△1,108,510
	経常費等補助金	277,454,000	269,283,307	8,170,693
	国庫補助金	258,462,000	249,878,000	8,584,000
	地方公共団体補助金	18,992,000	19,405,307	△413,307
	付随事業収入	422,352,000	419,466,784	2,885,216
	雑収入	111,897,000	111,248,886	648,114
	教育活動収入計	4,218,336,000	4,217,120,438	1,215,562
	事業活動支出の部			
人件費	1,833,190,000	1,836,035,923	△2,845,923	
教育研究経費	1,512,149,000	1,474,367,596	37,781,404	
管理経費	663,051,000	641,587,543	21,463,457	
徴収不能額等	26,544,000	29,052,500	△2,508,500	
教育活動支出計	4,034,934,000	3,981,043,562	53,890,438	
教育活動収支差額	183,402,000	236,076,876	△52,674,876	

(単位：円)

科目		予算	決算	差異
教育活動外収支	事業収入の部			
	受取利息・配当金	32,440,000	31,472,390	967,610
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	32,440,000	31,472,390	967,610
	事業支出の部			
借入金等利息	8,471,000	8,470,609	391	
その他の教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外支出計	8,471,000	8,470,609	391	
教育活動外収支差額	23,969,000	23,001,781	967,219	
経常収支差額	207,371,000	259,078,657	△51,707,657	
特別収入の部				
資産売却差額	88,000	119,370	△31,370	
その他の特別収入	4,476,000	5,162,013	△686,013	
特別収入計	4,564,000	5,281,383	△717,383	
特別支出の部				
資産処分差額	8,358,000	10,539,638	△2,181,638	
その他の特別支出	17,409,000	18,988,883	△1,579,883	
特別支出計	25,767,000	29,528,521	△3,761,521	
特別収支差額	△21,203,000	△24,247,138	3,044,138	
基本金組入前当年度収支差額	186,168,000	234,831,519	△48,663,519	
基本金組入額合計	△310,601,000	△244,434,913	△66,166,087	
当年度収支差額	△124,433,000	△9,603,394	△114,829,606	
前年度繰越収支差額	670,481,000	670,481,395	△395	
翌年度繰越収支差額	546,048,000	660,878,001	△114,830,001	

(参考)

(単位：円)

事業活動収入計	4,255,340,000	4,253,874,211	1,465,789
事業活動支出計	4,069,172,000	4,019,042,692	50,129,308

3. 貸借対照表 令和2年3月31日

資産の部

(単位：円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	10,447,652,200	10,465,708,428	△18,056,228
有形固定資産	6,765,534,664	6,834,828,175	△69,293,511
土地	1,725,516,149	1,725,516,149	0
建物	4,130,368,985	4,206,873,921	△76,504,936
構築物	50,784,952	49,024,453	1,760,499
教育研究用機器備品	363,341,730	362,500,923	840,807
管理用機器備品	29,717,887	31,657,732	△1,939,845
図書	458,739,070	455,352,107	3,386,963
車両	7,065,891	3,902,890	3,163,001
特定資産	423,519,108	348,200,135	75,318,973
第2号基本金引当特定資産	100,000,000	50,000,000	50,000,000
退職給与引当特定資産	323,519,108	298,200,135	25,318,973
その他の固定資産	3,258,598,428	3,282,680,118	△24,081,690
ソフトウェア	214,525,859	234,347,429	△19,821,570
有価証券	2,500,000,000	2,500,000,000	0
長期預金	500,000,000	500,000,000	0
その他の固定資産	44,072,569	48,332,689	△4,260,120
流動資産	5,206,306,330	4,967,565,435	238,740,895
現金預金	5,062,238,579	4,823,990,554	238,248,025
未収入金	76,088,013	84,370,388	△8,282,375
その他の流動資産	67,979,738	59,204,493	8,775,245
資産の部合計	15,653,958,530	15,433,273,863	220,684,667

負債の部

(単位：円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	831,025,796	913,977,063	△82,951,267
長期借入金	374,940,000	454,100,000	△79,160,000
退職給与引当金	363,240,842	336,589,364	26,651,478
長期未払金	92,844,954	123,287,699	△30,442,745
流動負債	2,006,085,927	1,937,281,512	68,804,415
短期借入金	79,160,000	91,660,000	△12,500,000
未払金	524,298,476	424,739,226	99,559,250
前受金	1,304,696,060	1,377,939,242	△73,243,182
預り金	97,931,391	42,943,044	54,988,347
負債の部合計	2,837,111,723	2,851,258,575	△14,146,852

純資産の部

(単位：円)

科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	12,155,968,806	11,911,533,893	244,434,913
第1号基本金	11,752,968,806	11,558,533,893	194,434,913
第2号基本金	100,000,000	50,000,000	50,000,000
第4号基本金	303,000,000	303,000,000	0
繰越収支差額	660,878,001	670,481,395	△9,603,394
翌年度繰越収支差額	660,878,001	670,481,395	△9,603,394
純資産の部合計	12,816,846,807	12,582,015,288	234,831,519
負債及び純資産の部合計	15,653,958,530	15,433,273,863	220,684,667

09

2020

- ～22日(火) 夏季休業期間
- 23日(水) スタートアッププログラム
- 24日(木) 後期授業開始

10

2020

- 8日(木) 月曜授業日
- 9日(金) 授業休業日
- 10日(土)～11日(日) 蒼天祭
- 12日(月) 授業休業日
- 24日(土) 保護者と教員との懇談会

今年は
オンライン
開催!

11

2020

- 24日(火) 後期前半授業終了
- 25日(水) 後期後半授業開始

12

2020

- 29日(火)～1月4日(月)
年末年始休業期間

01

2021

- ～4日(月) 年末年始休業期間
- 27日(水) 月曜授業日
- 28日(木)～29日(金) 合同試験
- 30日(土)～ 春季休業期間

02

2021

- 春季休業期間
- 2日(火)～3日(水) 一般1期入試
- 8日(月)～13日(土) 冬期集中授業
- 15日(月)～20日(土) 追・再試験期間

03

2021

- 春季休業期間
- 18日(木) 学位記授与式

教 員

講師 よしみ あき 吉見 明希 先端経営学科

講師 ささやま さとし 笹山 智司 情報メディア学科

特任講師 きよさわ としかつ 清澤 智克 情報メディア学科

職 員

いわの くみこ 岩野 久美子 図書館事務室

ちん らくへい 陳 楽兵 国際交流・留学生支援課

ひろた りゅういち 廣田 隆一 学生サポートセンター事務室

たむら りょうた 田村 亮太 情報センター事務室

やえはら ふみたか 八重原 史貴 教務課

新型コロナウイルスの影響で、授業やサークル、アルバイトなど、生活環境が大きく変化しました。しかし、コロナ禍であっても本学として様々な取り組みや対応をし、学生たちに少しでも安心、安全を与えられるように努力してきました。これからの“ウィズコロナ”時代も、大学一丸となって乗り越えていきましょう!

さて、本号は“絵と字”のチバタカハルさんにデザインを担当していただき、装い新たな大学広報誌となりました。チバさんは本学の平成12年度卒業生です。卒業後もこうして関わりをもてることはうれしいですね!

大学広報プロジェクトメンバー

あんばいたかし おだしま けいた きのした あつし
安倍 隆 / 小田島 敬太 / 木下 篤史
さとう まみこ なかみち だいき にたとり かつま
佐藤 真美子 / 中道 大樹 / 似鳥 克馬

「ななかまど」バックナンバーは
大学Webサイトでご覧いただけます。



今年の蒼天祭は
オンライン開催!

詳しくは…WebサイトへGO!





北海道情報大学

〒069-8585 北海道江別市西野幌 59-2
TEL : 011-385-4411 (代表) / FAX : 011-384-0134

発行 北海道情報大学

編集 北海道情報大学 大学広報プロジェクト

デザイン 絵と字

【表紙写真】北海道情報大学 創立者 松尾 三郎 先生像